

コンセプト比較

バックアップとアーカイブ (データの保護と保存)

2015年09月04日

ワイヴァンアイエス研究所

<http://www.y-vern-is.com>

内容

- › データの保護と保存
 - バックアップの必要性
 - アーカイブの必要性
- › バックアップとアーカイブの比較
 - 目的
 - 頻度
 - 保存方法
 - データの種類
 - 利用例

本文書に記載のすべての商標、商号、または製品名は、該当する各社の商標、商号、または製品名です。本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。この文書の使用によって直接的または間接的に生じた損害について、一切責任を負いません。

データの保護と保存

データの保護(バックアップ)の必要性

- 企業活動では、社会生活へ重大な影響を与える
 - › 「情報システムの可用性を高める(=いつでも利用できるようにしておく)」ことが必須
- 情報システムの停止は業務の停止に直結する
 - › 出来るだけ早く復旧する必要がある
- システムの復旧はOSやアプリケーションを再インストールだけでは不十分
 - › セキュリティパッチの適用など、従前の環境を再構築するには多くの手間が必要

データの保存(アーカイブ)の必要性

- 日々増加する全てのデータをプライマリストレージ(高パフォーマンスディスク)に保存しておくのは非効率
 - › 使用頻度が少ないデータはアーカイブし、プライマリストレージを有効に利用
- 作成される文書は電子化されているが、悪意や過失によって消失する可能性がある
 - › 重要なファイルはリムバブルメディアにアーカイブすることで、オンラインから隔離が可能
- 電子メールが個人のPCにしか残っていない状態では、重要なメールが消失する危険性が常にある
 - › メールサーバで送受信メールを全てアーカイブすることにより、リスクを回避できる
- 法令順守
- 業務コストの削減

出典：JEITAテープストレージ専門委員会

バックアップとアーカイブの比較

バックアップ	比較項目	アーカイブ
データの消失や破損時の復旧 (予期せず喪失したデータの復旧)	目的	データの長期的な保管と再利用 (参照頻度の低いデータの効率的な保管)
障害の発生時	使用頻度	参照や利用に応じて
上書き記録 (更新)	別ストレージへの格納法	追加記録 (上書きはしない)
リストア作業が必要	アクセス性	ファイル単位でアクセス可能
本番稼働の複製データ アクティブデータ (ホットデータ、ウォームデータ)	データの種類	オリジナルデータなど長期保管が必要なデータ 非アクティブデータ (コールドデータ)
ディスククラッシュ ウィルス感染 誤消去 災害対応	利用例	原本データの長期保管 内部統制や法令遵守 計測データや監視カメラのデータ プライマリストレージの容量確保

ご参照いただきありがとうございます！